

図書館情報学橋会会報 第10号(通号16号)

2010年9月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橋会

◇素晴らしき先輩たちの心意気を繋いでいきたい 4◇

図書館情報学橋会会長 森 茜

(図短別・昭40卒)

図書館学を科学に高めた人

…石井 啓豊さんのこと…

私が石井啓豊(いしい ひろとよ)さんの名前を知ったのは、昭和59年(1984年)、文部省から東京学芸大学(学芸大)の図書館の課長に転任した時だった。当時、学芸大の図書館では、管理部門の業務電算化が進んでいて、職員にも、コンピュータ3羽鳥といわれるチャキチャキの若者たちがいた。北村明久、友光健二、栃谷泰文らだ。後に彼らは、揃って東大図書館に移り、全国的な書誌情報のコンピュータ化やのちのちの電子図書館構築の牽引車となるのだが、聞けば、学芸大学図書館のコンピュータ化を導き、彼らを育てたのが石井さんだったという。私が、図書館とコンピュータの問題の洗礼を受けた場所は、まだ熱い息の残っていた現場だったのだ。

石井さんは京都大学農学研究科博士課程で学んで、一旦、農学の教職をした後、図書館短大別科を卒業(1975年)した図書館界では数少ない理系出身者だった。

私と石井さんの2度目の接点は、平成10年(1998年)、私が図書館情報大学(図情大)の事務局長に就任したときだ。石井さんは、気鋭の図書館実務者から図書館情報学の泰斗へ見事に变身し、図情大の教授になっていた。図情大は、旧来の実務型図書館学と新しい学問として急展開していた情報学とを融合した新しい学問を切り開くことを目指すとして1979年に創設された。しかし実態は、理系情報学出身の教員と旧態から抜け出せない図書館学系の教員との学問的融合はなかなか困難のようであった。そんな中であって、石井さんは、実務系図書館の現場出身でありながら、若い頃に蓄えた農学コンセンサス手法とも言うべきシステム・ダイナミクスに基づく分析を図書館経営論や図書館サービス論に取り入れることに成功した。これにより、従来、経験論

的、実践論的に述べられてきた傾向の強い図書館学に科学的アプローチの可能性と効果を立証し、図書館学を現代科学として通用する学問に成長させた。

石井さんは、このようなシステム・ダイナミクスの手法を図書館学のいろんな分野に取り入れている。たとえば、書誌ネットワークにおける典拠コントロールや、情報サービスにおけるシステム思考とモデリングなどだ。

石井さんの科学的手法による図書館学の開拓は、他の研究者にも大きな影響を与え、以降、今日におけるシステム・モデリングによる図書館経営論や計量情報学による情報流通論などの隆盛につながっている。

大学統合に力を発揮した学問実績

図情大の事務局長としての私の大きな仕事は図情大と筑波大学との統合だった。この一大作業の中で、図情大が、科学主義の強い筑波大学との統合に対等に立ち向かうためには、図書館学が現代科学の一つであることを教員たちの研究実績をもって示していくことが重要だった。そのような過程で石井さんの存在は大きな効果を発揮した。筑波大学という巨大な学問の坩堝の中で、図書館情報学が自立した学問分野として発展していく礎を作ったといっても過言ではない。

厳しい筑波大との交渉の過程で、石井さんたちの科学的図書館学と寺田光孝さんたちの社会文化史的図書館学の研究実績が、どれほど図書館情報学の自立性を証明してくれたか、事務屋の私は、感謝と誇りを持って後輩たちに伝えたいと思う。

さて、私と石井さんの3度目の接点は、この橋会である。しかし、その話は、またの機会に譲ることにしよう。

和光先生の思い出

筑波大学図書館情報メディア研究科教授 松本 紳

和光信也先生は、さる3月9日、病氣療養中のところ享年72歳の若さで御逝去されました。あまりに突然の訃報でしたが、葬儀には多くのOB,OGの方が参列されました。

先生は、昭和55年4月に開学間もない図書館情報大学（昭和54年10月開学）に赴任され、平成15年3月に定年退職されるまでの23年間、図書館情報大学での教育に御尽力されました。図書館情報大学は平成14年10月に筑波大学と統合しましたので、筑波大学名誉教授とされましたが、経歴を見れば、まさに図書館情報大学とともに歩んでこられたことが分かります。先生から教授を受けた卒業生は図情大1期生から、最後の23期生まで、すべての図情大生に渡っております。

先生の御専門は物理学でしたが、図書館情報学とのつながりは、物理学そのものというよりは、計算機によるものでした。先生は東大物性研時代、日本に導入されたばかりの大型計算機を駆使し、大規模な物理計算を行い、多くの業績を残されました。そういう意味では計算科学の草分け的存在であり、そのことが図書館情報大学との結びつけになったといえます。先生は、とにかく計算をすることがお好きで、朝から晩まで計算機の前に座っておられました。先生にとって計算機は仕事というよりは趣味に近かったのではないかと思います。私が赴任した1980年代は、まだ計算機の性能も今ほど良くなかったもので、今ならPCで数分あれば計算できるものでも、当時は数時間かかるものもざらでした。複数の人が1台の大型計算機をシェアして利用するので、場合によっては、数日かかるものもあり、研究上、非常に効率が悪かったわけです。当時大型計算機は運用上、夜8時

に止められてしまいましたので、先生はほとんど毎日、夜12時（正確には23時59分）まで延長願いを出し、計算機を動かしていました。今みたいに自宅からリモートで使えるわけではなく、最後に計算機の停止を確認しなければならなかったもので、帰宅は夜中の12時を過ぎてからということが普通のごとく行われていました。当時はレポートに追われた幾人かの学生さんも便乗して居残っていました。夜遅いと危険だからと、そのような学生達をアパートまで車で送り届けるといったことも行っていました。今となっては楽しい思い出です。

物理の分野では大先生なのですが、学生に対しては本当に気さくで、時には（しょっちゅう？）駄洒落を飛ばし、やさしい先生として皆から慕われていました。ほとんどの学生の顔と名前を覚えており、家族同様の愛情を注がれていたからかもしれません。またテニスとスキーがお好きで、授業や研究の合間によくテニスをご一緒したこともあります。先生のテニスはパワーというよりはテクニックで打ち負かすという感じでした。先生の書かれたソースプログラムを見ると何らかの共通点があるように思われます。スキーの方は、学生時代に初代学長でもある松田智雄先生直伝だと聞いております。

和光先生の思い出は、まだまだ尽きないのですが、すでに予定の字数を越えてしまいました。最後になりましたが、先生の生前の功績に対して、従四位、瑞宝中綬章の叙位、叙勲がなされたことをご報告しておきます。和光先生の御冥福を心からお祈りいたします。

小野寺先生の思い出

元 筑波大学図書館情報メディア研究科教授 都築正巳

先日小野寺先生の訃報に接して、我が人生をも振り返り、感無量である。

小野寺先生は1925年のお生まれだから、85歳

の長寿を全うされたことになる。宮城県出身で東京大学文学部独乙文学科を卒業後、同大学院を経てドイツ語人生を歩まれることになった。1951年

山形大学助手、1952 年同専任講師を経て、1955 年茨城大学専任講師、1956 年同助教授となり、1960 年からは東京大学で助教授を経て教授となっておられ、ドイツ語人生としても出世コースを辿っておられる。そして 1985 年に図書館情報大学教授（外国語教育センター長）となり、1987 年同副学長、1991 年同学長となり、余人に追随を許さない常に嘱望される人材であった。

ご専門はドイツ語学で、辞書の大家として名高い。若い頃には文学にも打ち込まれていたようで、ドイツ古典文学にも通曉なさっているが、それを知る人は少ない。およそ自己の知識を吹聴する人ではないからである。ご退官のときに、マンション暮らしになるからと言われて、日本近代文学全集を譲り受けたが、これも小野寺先生の衆目のイメージからは遠い。

私と小野寺先生との関係はドイツ語とともに長い。先生は 1960 年から東京大学の教養学部（駒場）で教鞭を取られているが、当時私は理科系の学生であったから、ドイツ語の先生との接点はなかった。しかしその後ドイツ文学を専攻し、1967

年に茨城大学の専任講師になって以来、何かと小野寺先生に接する機会も多くなった。茨城大学を去られてからも、集中講義で毎年のようにお出でいただいていたので、よく七夕の頃の宴会で、小野寺先生を囲む談笑のひとつときを過ごしたものである。沈着な話しぶりで学者の威厳は崩さないが、時折見せるさりげないユーモアが笑いを誘うのであった。

小野寺先生が図書館情報大学長のときに話があつて、私も 1993 年から図書館情報大学に移籍し、翌年から外国語教育センター長となり、学長ご退官までのわずか 2 年半ではあつたが、上司としての先生にお仕えできたのは、まことに光栄であり、また不思議な縁でもあつた。小野寺先生は専門性に優れ、大学行政にも堪能な模範的学者であつたが、人格としてはドイツ的教養人であり、時代とともに変転してやまない図書館情報学という学問にとっても、氏を学長として仰いだ歴史の一齣は、学問の奥行き証左となり、名誉なことでもあつただろう。



鳴海元副学長ご逝去

元図書館情報大学副学長 鳴海元（なるみ はじめ）先生（享年 91 歳）におかれましては、平成 22 年 6 月 22 日に逝去されました。

大正 8（1919）年 12 月 13 日 生まれ 兵庫県神戸市出身
昭和 18（1933）年 京都帝国大学理学部卒
昭和 20（1945）年 京都帝国大学大学院特別研究生修了
昭和 32（1957）年 理学博士
昭和 33（1958）年 同志社大学工学部電気学科教授
昭和 37（1962）年 広島大学理学部物理学教授
昭和 56（1981）年 図書館情報大学教授 附属図書館長
昭和 57（1982）年 - 昭和 58（1983）年 図書館情報大学副学長

◇会員便り◇

本を手渡す

轟 良子 (図短図・昭49卒)

図書館活動は駅伝に似ている。タスキの代わりに手渡すのは本。本を片手に36年間走り続けた私は3年後のゴールが目前に見えるようになった。

私は図書館短大を卒業した昭和49年に北九州市に入職、北九州市立中央図書館開設準備室に配属された。翌年、開館した図書館に現在も勤めている。一番長く携わっているのはレファレンス。地域に関わる事柄を質問されることが多く応えるのに苦労している。文学関係の質問が多い。その課題解決に役立てばと考え、地域ゆかりの文学を調べて新聞に連載した。それが平成9年に『北九州文学散歩』同13年に『ふくおか文学散歩』として西日本新聞社から出版された。

次に急務だと考えたのは人物文献の整備である。日本の近代化を支えた北九州には海外からも人物についての問い合わせがメールなどで寄せられる。アインシ

ュタインから森 鷗外まで北九州ゆかりの人物を紹介する「海峡の風 北九州の先人たち」を総合情報誌「ひろば北九州」で平成14年から始めた。8年経って『海峡の風 北九州を彩った先人たち』が北九州市芸術文化振興財団から平成21年9月に出版された。「産業・財界人」「作家」「詩人・歌人」「俳人」「文芸評論家」「芸術家」「教育・研究者」など分野別に84人を紹介した。連載は現在も続けている。

これらの活動に対して、本年9月16日に「図書館法施行60周年記念図書館関係者表彰」で文部大臣表彰を受けることになった。お世話になった先生方や図書館の皆様に感謝している。

最後に私事で恐縮だが、長女は図書館情報大学の最後の卒業生である。卒業後、九州大学附属図書館に勤務し、7年になる。昨年は母親になった。祖母になった私は3年後のゴールを目指してラストスパートをしている。図短時代に渡された本というタスキを次の世代に手渡すために。

※※※

対訳詞華集『虹の架け橋』について。

戸辺好郎 (養B・昭33卒)

〔炎帝に初めて出した直訴状〕〔暑さへの怨嗟が満ちる日記帳〕〔炎帝へ三下り半を突き付ける〕〔夏好きをきっぱり止めた夏生まれ〕〔夏風邪へ嗚呼無残やな締切日〕〔八十の翁にむごい炎暑かな〕

冒頭から暑さへのうらみ節を書く羽目になりました。暑さを司る偉大な炎帝殿は我々後期高齢者から全ての意欲を篡奪して熱中症寸前の生ける屍にしてみました。文章など纏める気力が湧きません。

私の川柳歴はほぼ半世紀を越えておりますが、川柳への創作意欲すら沸いてこない事はなかった。誠にもって、万事窮すべきではある。ところで、ぼやきは一応棚に上げて本題に入りましょう。

『虹の架け橋』(水崎野里子編H22年3月発行)の紹介に入ります。サブタイトルは「日英スペイン対訳・現代詩人アンソロジー」で谷川俊太郎など代表的な現代詩日英西対訳を掲載。それに自由詩。短詩・時調(在日詩人による三行詩)・短歌・俳句・川柳を加えたユニ

ークなもので、編者の言葉によれば「伝統詩の伝統継承と独創性の世界への発信が目的」で原作者は総勢35名が夫れ夫れのジャンルで独自の詩の世界とアイデンティティを主張しており、総ページ数も300ページを越える大冊となっています。

ところで本書の特色の一つはスペイン語が入った対訳アンソロジーとしては本邦では初めてということであり、スペイン語圏への日本現代詩の紹介のパイオニア役を演じられた訳です。

さて字数の制限もありますのでこの辺で本稿を閉じたいと思いますが本書に採用された私の川柳作品は12句です。「たかが12句」ですが「されど12句」です。是非とも御披読賜わりご感想など戴ければと、思います。これでは物足りないと思し召す方には・絶版にはなりましたが北星堂より2003年6月刊行された英和対訳『遠蛙』DISTANTFROGがあります。本稿をお借りして厚かましくもお薦めする次第です。

炎帝に退位を迫る夏の月(2010年8月25日一満月の日に)

◇平成22年の知識情報・図書館学類の状況◇

筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類長 松本 紳

1) 在籍者数

定員 100名 + 3年次編入 10名

区分	人数	男女比
1年	109	40 : 40
2年	103	42 : 58
3年	116	33 : 67
4年	117	45 : 55
図書館情報専門学群	43	47 : 53
合計	445+43	

※ 学類全体の男女比 40 : 60

※ 知識情報・図書館学類の卒業生は今年度から

2) 主専攻別人数 (3年次に主専攻に配属)

専攻	教員数	3年生	4年生
知識科学	15	29	28
知識情報システム	15	30	36
情報経営・図書館	19	55	53

3) 入試志望者数

区分	定員	H20	H21	H22
AC	5	24(4.8)	15(3.0)	12(2.4)
推薦	20	67(3.4)	38(1.9)	49(2.5)
前期	60	147(2.5)	137(2.3)	138(2.3)
後期	15	111(7.4)	100(6.7)	92(6.1)
全体	100	351(3.5)	290(2.9)	293(2.9)
3編	10		61(6.1)	54(5.4)

※ カッコ内は倍率 (志望者数/定員)

4) 平成21年度進路状況 (図書館情報専門学群卒業生)

H22.5.1 現在

区分	人数	備考
定員	180	
卒業生	165	
進学者	334	

(うち本学)	(29)	
就職者※	97	就職率 91% (大学全体 92.4%)
就職希望者	107	
その他	34	活動中、留学・研究生、 来年の資格試験等準備

※ 就職者内訳

企業: 68 教員: 1 独法等: 6 公務員: 22

5) 新任教員

2009.9.1

白井哲哉 准教授 担当科目: テクスト解釈、
古文書論

2009.10.1

上保秀夫 助教 担当科目: 専門英語、レ
ファレンスサイエンス

2010.4.1

石井夏生利 准教授 担当科目: 情報社会と
法制度、情報法

2010.6.1

関 洋平 助教 担当科目: 自然言語解析基
礎、情報検索システム

6) 退職教員

2009.8.31 藤井 敦 准教授

7) その他

・国際インターンシップ

H21: 上海図書館、ハワイ大学

H22: ミシガン大学、釜山大学、トロント文
化センター etc.

・ラーニングコモンズ設置

図書館の入り口脇

端末8台、学生チュータ

第7回総会の記録

〈日時〉平成22年7月17日(土)

〈会場〉茗溪会館 5階会議室

〈出席者〉理事・監事を含め、約20名

〈総会議事〉

(1) 開会挨拶(森茜会長)

(2) 来賓挨拶

(植松貞夫 筑波大学図書館情報メディア研究科長、

松本紳 筑波大学知識情報・図書館学類長、

林史典 茗溪会理事)

(3) 議長選出と議事録署名人の指名

森会長が議長に選出され、議事録署名人として、

戸辺、友光、関川の3氏が指名された。

(4) 議事(以下の議案について、いずれも異議なく了承された。)

1) 平成21年度事業報告及び決算報告

1. 会員現勢…平成21年度末現在、会員1699名、平成21年度中の入会10名、学生会員からの移行89名、退会18名、逝去2名

2. 事業報告…(1)筑波大学行事への参加、(2)第6回総会の開催、(3)会報第8号・第9号の発行、(4)全卒業生交流会「大橋会」の開催、公開講演会「青山七恵と気楽な朗読会」の開催、(5)同窓会ホームページの充実とリニューアル検討、(6)卒業生の勧誘、(7)茗溪会本部行事参加、(8)会則改正の準備、(9)「橘の木」プレートの寄贈、(10)「筑波大学支援図書館情報学振興基金」の活動

3. 決算報告…(次頁の通り)

2) 会則改正…改正点は以下の4点

1. 筑波大学の学群等組織変更による名称変更(第3条及び第4条に関し、筑波大学図書館情報学群・図書館情報メディア研究科を、今後の学群等組織変更にも対応できるよう、「図書館情報学に係る学類、大学院研究科専攻等」に改める。あわせて、図書館、情報メディアに関する教育研究推進への寄与を、「図書館、情報メディアに関する知識の普及」と改める。)

2. 役員的位置づけを明確とするための変更(会長、副会長を理事の一員とすることを明

らかにするために第11条に1項を設ける。)

3. 各期幹事の職を廃止するための変更(個人情報保護法の施行により各期幹事からの個人宛連絡を行うことが困難になってきたため、各期幹事の職を廃止することとし、各期幹事に関し規定されている第11条、第14条、第15条、第17条を改正する。なお、会員への連絡については、ホームページ、インターネット等を活用して行っていくこととする。)

4. 事務局長を理事が兼ねることができるようにするための変更(平成16年以後、事務局長は副会長が兼ねることを附則で規定していたが、第29条第2項を「事務局長は理事が兼ねることが出来る」ものに改正する。また、これに伴い、附則の「2 第29条第2項の事務局長は、当分の間副会長のうちの1名がこれを兼ねる。」を廃止する。)

3) 役員改選

1. 第4期役員選出。総会以降に適任者がある場合には理事会の承認を得て理事を追加し、次回総会で追認。

2. 茗溪会代議員を選出。規定により会長・副会長の計3名が代議員に確定。残る3または4名の代議員については新理事会で選出。

4) 平成22年度事業計画案及び予算案

1. 事業計画…(1)会員の一層の拡充、(2)会報の発行、(3)全卒業生交流会「大橋会」(第2回)の開催、(4)公開イベントの開催、(5)筑波大学学群再編にともなう会則改正、(6)ホームページのリニューアルとWebサイト制作公募、(7)同窓会各グループ活動との連携、(8)その他

2. 予算案…(次頁の通り)

5) その他

1. ホームページのリニューアルとWebサイト制作公募の経緯、第2回大橋会で内容発表
2. 大橋会(第2回)を10月10日に開催

(橘会理事 城谷浩 [図情大 昭和59])

平成 21 年度決算報告

一 般 会 計				特 別 会 計			
収入		支出		収入		支出	
前年度繰越	8,208,434	支出	2,375,526	前年度繰越	3,103,501	支出	847,468
収入	2,145,651	次年度繰越	7,978,559	収入	782	次年度繰越	2,256,815
合計	10,354,085	合計	10,354,085	合計	3,104,283	合計	3,104,283



平成 21 年度事業報告

- (1) 筑波大学行事への参加
平成 22 年 3 月 25 日、会長が平成 21 年度学位記授与式（卒業式）及び懇親会に出席した。
- (2) 第 6 回総会の開催
茗溪会支部「図書館情報学橋会」としての第 6 回総会を平成 21 年 7 月 18 日（土）に開催した。
- (3) 全卒業生交流会「^{だいたちはなかい}大橋会」の開催
全卒業生が集い友好を深める場として、第 1 回の全卒業生交流会「大橋会」を、平成 21 年 10 月 11 日に筑波大学春日キャンパス（旧図書館情報大学）で開催し、多くの参加者を得た。
内容：
 - ① 筑波大学春日キャンパス見学会（筑波大学図書館情報学群の協力のもとに実施）
 - ② 公開イベント「青山七恵と気軽な朗読会」（筑波大学図書館情報学群と共催）
お話：青山七恵（小説家、文藝賞・芥川賞・川端康成文学賞受賞、筑波大学図書館情報専門学群卒）
朗読：梶谷裕（舞台俳優）
“アトラクション” 歌：気谷陽子（筑波大学図書館員 図書館短期大学卒）
 - ③ 卒業生懇親会
- (4) 会報第 8 号・第 9 号の発行
「図書館情報学橋会会報」第 8 号（通号 14 号）を平成 21 年 9 月、第 9 号（通号 15 号）を平成 22 年 3 月に発行した。
- (5) 同窓会ホームページの充実とリニューアル検討
 - ・橋会ホームページの「会員の広場」ページ内に「会員に知らせたい情報コーナー」を新たに設置し、また会報を掲載するなど、ホームページ内容の充実を図った。
 - ・ホームページのリニューアルに向けて検討を進めた。ホームページ内容を(1)会員のみアクセスできるページと、(2)誰でもアクセスできるページに分け、「会員掲示板」「写真館」「同期会等専用ページ」などを設ける予定。
 - ・ホームページアドレスは次の通り。
<http://www.tachibana-kai.com/>
- (6) 卒業生の勧誘
平成 21 年度卒業生・修了生に、学位記授与式での入会案内・会報配布などの PR・勧誘を行った。
- (7) 茗溪会本部行事参加
平成 21 年 5 月 28 日の茗溪会総会に代議員として森会長が出席した。
平成 21 年 10 月 11 日開催の大橋会公開イベントについて茗溪会公益事業に申請し承認された。
- (8) 会則改定の準備
筑波大学の学群再編にともない会則改定の検討・準備を進めた。
- (9) 「橋の木」プレートの寄贈
筑波大学春日キャンパスの記念植樹「橋の木」の記念石柱を寄贈した。
- (10) 「筑波大学支援図書館情報学振興基金」の活動
筑波大学図書館情報学海外研修助成、図書館情報学実習補助、卒業式祝賀会への支援を行った。

以上

◇ 会員現勢 ◇

1. 会員数

1,696名（平成22年7月1日現在）

関大博前期	11
関大博後期	1
筑関	145
筑博関情修士	3
筑博関後期	3
筑博関前期	3
合計	1,696

2. 卒業校別内訳

卒業校	人数
文関教習所	1
文関講習所	71
国関附養	1
文関養成所	89
文関養成 A	173
文関養成 B	66
文関養成 1 B	3
文関養成 2 B	11
関短付養成	23
関短特養課	127
関短図書館	320
関短文献情	80
関大関情専	11
関大関情	536
関大関情修	18

3. 新規加入

（以下、HP 掲載では省略）

☆平成22年度分会費納入のお願い☆

平成22年度分の会費につきまして、今年度未納入の会員におかれましては、下記郵便振替口座あてにて納入くださるようお願いいたします。

なお、通常会員の会費は3,500円です。また通常会費完納者(35回分納入済みの方)には、橘会円滑な運営のため橘会固有の協力会費2,000円を維持費としてお願いしています。

記

振込先郵便振替

口座番号 00110-5-656101

加入者名 図書館情報学橘会

社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日1-2

E-mail info@tachibana-kai.com

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/index.html>

発行：2010年9月1日